

そのイメージ、古いかも？介護業界の今

図▷記事について…広報統計課 図43-9317 ▷介護出前講座について…介護保険課 図43-9292

もしも、祖父母や親に介護が必要になったら…。もしも、自分に介護が必要になったら…。医療が発達し、多くの人が長生きできるようになった日本で、介護は誰にとっても避けて通れません。介護のニーズは増える一方ですが、介護業界の人材は不足しています。

介護職って、実際どうなの？

介護職と聞くと、「3K(きつい・汚い・危険)」や「給料が低い」といったネガティブなイメージが浮かぶ人もいるのではないのでしょうか。

しかし、それは昔の話。現在は、国を挙げて働く環境を整備したり、賃金アップを進めたりしています。

福祉用具で 職員の負担軽減！

介護現場では福祉用具やICT(情報通信技術)の活用が進んでおり、現在は福祉用具による「ノーリフティングケア(抱え上げない介助)」で、現場で働く職員の体の負担を減らしています。

他にも、利用者の見守りや入浴をサポートする福祉用具があったり、業務の効率化のためにタブレット端末やスマートフォンを活用したりする職場も増えています。

職場が職員を サポート！

職員が安心して働き続けられるように、多くの職場がサポート体制を充実させています。例えば、新人に対しては歳の近い先輩を教育係として付け、仕事の方法を教えたりアドバイスをしたりするメンター制度などを導入している職場や、悩んだ時に一人で抱え込むことがないよう、相談窓口などを用意して、職員のメンタルケアに力を入れているところもあります。

給料… 上がってます！

社会の高齢化が進む中、介護現場で働く人たちの確保が重要です。この問題に国は、待遇をよくするための仕組みを整え、介護職の賃金アップにつなげてきました。

現在は、平均給与額で一月当たり約30万円！今年6月からは、さらに介護業界の処遇改善を進めるため新制度を開始しており、今後も賃金アップが見込まれます。

プライベートも 充実！

各職場では休みを取りやすくしたり、残業をなくしたり、生活に合わせて勤務時間を調整できるようにしたりと、働き方改革を実施しています。

連続して休みを取れるリフレッシュ休暇制度を設けたり、出産予定の職員には産休や育休の取得、勤務時間の短縮などの選択肢があることを知らせ、生活スタイルに合わせて仕事を続けられるようにしたりしています。

＼ 介護の現場は進化している！ /

介護出前講座で介護の仕事の魅力発信！

市では、市内の中高生を対象に、介護の仕事の魅力を広く知ってもらい、生徒の皆さんから介護の仕事に興味を持ってもらえるよう「介護出前講座」を開催しています。

7月に青森県立八戸東高等学校で行った出前講座には、生徒26人が参加し、最新の福祉用具を体験しました。



介護職員の説明を聞きながら、介護施設での仕事を学ぶ。



福祉用具でベッドに寝ている人を持ち上げ、車椅子に座らせる「ノーリフティングケア」を体験。



ハンドルとボタンで簡単に操作できる電動カートを運転。



ベルトや重りで動きを制限したり、特殊なゴーグルをかけたりして、「高齢者」を疑似体験。

受講してみた感想は？

私は看護師を目指していて、他職種についても知っておくことで、より患者さんに寄り添えると思ったので受講しました。

介護の仕事は、つらいから人手が足りないというイメージを持っていました。ですが、介護士の方は笑顔で利用者さんに接していて、楽しく働いているようだったので、いい仕事だなと改めて思いました。



私は医療福祉関係の職に就きたいと考えていて、介護士という仕事にも興味があり、最新の福祉用具を使った介護の方法を知りたいと思い、受講しました。

介護の仕事は、利用者さんを持ち上げるのが大変そうだと思っていましたが、想像以上に福祉用具を利用した「ノーリフティングケア」が進んでいて、介護士にも利用者さんにも負担が少ないケアの方法があったので、夢が広がりました。



介護出前講座にご協力いただいている事業者にお話を伺いました。

(株)サンメディカル 八戸営業所

主に介護保険制度を利用した福祉用具のレンタルなどを行っています。

「福祉用具」ってどんなもの？

車椅子や介護ベッドのほか、トイレや廊下・玄関に設置する手すり、体が自由に動かせない人のための床ずれ防止エアマットなどがあります。歩行器やつえ、車椅子用のスロープも福祉用具です。

利用者からはどんな声がある？

「今まで壁伝いで歩いていただけ、手すりがあるだけでも安心して歩ける」というような声を聞くと、うれしくなります。

近年の「福祉用具」のニーズは？

機器の発展もあると思いますが、多くなってきているのは見守り支援の用具です。市内でも、認知症の人が家族がいない間に外出して警察が捜索する、ということが増えてきているようです。家族が気づかないう

ちに家から出た場合でもわかる感知機器はすごくニーズが増えています。

介護の現場でも大活躍！

福祉用具メーカーも介護業界の人手不足を意識していて、例えば、センサーで排泄を感知してお知らせするものがあります。これまで定期的に一人一人のおむつを確認していたのが、必要最小限の確認で済み、さらに排泄してから何時間も放置されることなく適切なケアをすることができます。

こういったAIやロボットの技術が応用されているものも多く出てきて、10年前と今とではかなり変わってきていると感じています。

利用者と介護者、双方の負担が軽くなるような福祉用具が、これからも増えていくのではないのでしょうか。



もりやまさちえ
所長 森山幸恵さん(左)
なかがわひろき
主任 中河寛希さん(右)